

平成 30 年度習志野市史編さん委員会議事録

1 開催日時 平成 31 年 1 月 16 日(水)午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分

2 開催場所 習志野市庁舎 3 階 大会議室 C

3 出席者

【委員長】 國學院大学 名誉教授 上山 和雄

【副委員長】 成田市文化財審議委員会 委員長 小倉 博

【委員】 習志野女性史聞き書きの会 会員 野元 啓子

津田沼小学校 校長 坂本 永

政策経営部広報課 課長 安達 幸希

総務部情報政策課 課長 渡辺 雅史

【事務局】 教育委員会 教育長 小熊 隆

生涯学習部 部長 斉藤 勝雄

次長 岡村 みゆき

社会教育課 係長 松浦 史浩

副主査 鶴岡 奈々

主任主事 千葉 千亜紀

4 委員長・副委員長の選出

5 委員長・副委員長挨拶

6 会議録署名委員の指名

7 報告

(1) 市史調査

(2) 市史関係資料の保存と活用

(3) その他

8 その他(非公開)

(1) ドイツ兵捕虜収容所関係資料について

(2) 民俗資料調査について

9 会議資料 「平成 30 年度習志野市史編さん委員会」会議資料

※別添資料

資料 1 小企画展「津田沼鉄道連隊」解説資料

10 議事内容

(1) 委員長・副委員長の選出

「習志野市史編さん委員会条例」第4条の規定により、委員長に上山委員、副委員長に小倉委員が選出された。

(2) 委員長・副委員長挨拶

(3) 会議録署名委員の指名

上山委員長より、小倉副委員長と野元委員を指名し、了承を得た。

(4) 報告

① 市史調査

【主任主事千葉】市史関係資料の収集・調査について報告。

- ・ 寄付・購入によりドイツ兵捕虜収容所関係の写真資料を収集した。その他の文献資料や新刊出版物、古書、デジタルデータについても、市史に関する資料の収集を継続的に行っている。
- ・ 歴史公文書について、会計課保存の保存期間が満了した契約書のうち、歴史的に重要なものを収集した。また、平成28年度に新庁舎への移転準備に際し、庁内に向けて「市史の資料となる重要な文書」の保存について依頼したことについて、今年度も同様の依頼を行う予定である。
- ・ その他の調査について、総合教育センターでの小企画展に伴い、市ホームページに「津田沼鉄道連隊」の特集ページを新設した。また、市内各地区の年中行事、藤崎地区の富士講について、引き続き調査を進めている。

【上山委員長】写真資料の保管場所について伺う。

【主任主事千葉】写真資料は市庁舎5階の市史編さん室という温湿度の管理ができる部屋で保管している。

【上山委員長】平成28年度の新庁舎への移転前に、庁内に向けて歴史公文書の保存について依頼文を出したということだが、その後の状況について伺う。

【係長松浦】新庁舎移転に際しては、各担当課に対し歴史的に重要な文書を廃棄せず、引き続き永年保存とするよう依頼した。今年度も同様の依頼文を出す予定である。

【上山委員長】社会教育課の職員が各担当課に出向き、歴史公文書の選別をすることはできないか。

【係長松浦】今の段階では難しい。各担当課で判断に迷う場合は、社会教育課の職員が出向いて確認するという形で対応している。

【上山委員長】 歴史的に重要な文書を廃棄するようなことがないようお願いしたい。市史編さん室に歴史公文書を保管するという規定は現状ではなく、各担当が廃棄せずに保存しておくということか。

【係長松浦】 そうである。部分的にはこちらで引き取ったものもある。

【上山委員長】 市史編さんの際には、市史専門委員の近代史担当が旧庁舎の地下書庫にある廃棄文書の選別を何年間か実施した。そのような方法で歴史公文書の選別を実施している市町村もある。歴史公文書の選別は、各担当課に任せるだけではなく、市史編さんを担当している社会教育課等にも実施していただきたい。

【係長松浦】 市史編さん当時から全庁的な仕組みを作りかけたという経緯がある。歴史公文書の保存は、文書管理規程等も関わる全庁的な問題であると考えている。少しずつ進めていきたい。

② 市史関係資料の保存と活用

【主任主事千葉】 史資料の整理・保存について、市史編さん室保管史資料の整理や目録作成、マイクロフィルムのデジタル化を継続的に実施している。

- ・ 史資料の活用について報告。市庁舎 1 階展示スペースで市の歴史資料・文化財を常設展示している。今年度は市内出土の考古資料、ドイツ兵とロシア兵の捕虜収容所関係資料を展示した。また、習志野青年会議所主催イベント「習志野ソーセージでギネス世界記録に挑戦」においてドイツ兵捕虜収容所関係の資料を展示した。2020年1月には、ドイツ兵捕虜解放100年を記念して、市庁舎で展示会等を開催する予定である。
- ・ 総合教育センター1階ロビーでは、市指定文化財の谷津貝塚出土墨書土器・瓦塔を常設展示している。また、11月よりドイツ兵捕虜収容所関係資料の常設展示を実施している。他に、小企画展として「津田沼鉄道連隊」の展示を6月から12月まで実施し、1月21日からは「村絵図をよむ」という小企画展を実施する予定である。
- ・ 千葉県北西部地区文化財発表会・巡回展における谷津貝塚関係の展示について報告。
- ・ 史資料の利用申請、市史刊行物の販売状況、歴史講座への講師派遣、市史に関する問合せ、研修会等について報告。

【渡辺委員】 マイクロフィルムのデジタル化について、具体的にどのような事業であるのか伺う。

【主任主事千葉】 市史編さん室では、市史編さんの際に撮影した古文書等の写真をマイクロフィルムに焼いたものを保存しているが、これらのマイクロフィルムについて、委託せず社会教育課職員が機材を使い1コマ1コマデジタル化している。

【渡辺委員】 市民課等では、古い住民票や課税台帳などをマイクロフィルムで保存している。それらのデジタル化は検討しているか。

【係長松浦】 現在は社会教育課で保存しているマイクロフィルムのデジタル化作業で手一杯であるが、所在の把握等も含め検討したい。

【上山委員長】 住民票等はプライバシーの塊であるが、貴重なデータである。明治・大正の戸籍もこの地域の情報を伝える2つと無い資料である。使う時には制約をかける必要があるが、残しておかなくてはならない重要な公文書である。ぜひ、残していただきたい。

【小倉副委員長】 市役所で残すべき行政文書は確認しているのか。

【係長松浦】 文書管理規程等では、各担当課が保存年限を決める形になっている。保存年限を決める基準として、歴史的に重要なものについては永年保存にしなければならないという規定がある。永年保存の文書の廃棄には決裁を取る必要がある。その際には社会教育課でも確認し、廃棄してはいけないものはこちらで引き取るという仕組みを作っている。

【渡辺委員】 永年の文書については廃棄する際に市長決裁が必要である。永年保存文書の廃棄目録は社会教育課でも確認し、廃棄するか否か社会教育課が判断しているという状況である。

【安達委員】 小企画展などの史資料の展示についての広報はどのように行っているのか。

【係長松浦】 ホームページや広報誌に掲載している。他に紙のチラシを公民館・図書館等に配布し、ポスターも掲示している。

【安達委員】 関心の高い内容であるので、ホームページやチラシ、ツイッター等で積極的に呼びかけ、多くの市民の目に触れるような機会を作っていただきたい。

【上山委員長】 千葉県北西部地区文化財発表会の来場者はどれくらいか。

【係長松浦】 本発表会は2年に1回、各市持ち回りとなっている。会場の規模にもよるため、一概に何人ということとは言えないが、巡回展を含めると数百人くらいは来場している。

【野元委員】 総合教育センターは立地的にも行く機会が少ない。また、市庁舎1階の展示も規模が小さい。展示の規模を大きくすることはできないか。

【係長松浦】 イベント的な展示を実施する際には、もう少し大きな規模での開催を検討したい。

(3)その他

【生涯学習部次長岡村】 議会における市史関連の一般質問について報告。

1 点目の質問は、ドイツ兵捕虜収容所の資料に関して、どのような取り組みをしているのかというもの。これに対し、これまでに収集した資料の整

理を継続的に行っていること、捕虜の暮らしや地域との交流などの歴史を広く紹介するため、市庁舎や総合教育センターでの展示、市ホームページへの掲載を行っていること、そして新たな資料・情報の収集に努めていることを答弁した。

2 点目の質問は、関東大震災時の朝鮮人虐殺及び陸軍習志野学校について、関係する場所に説明板を設置してはどうかというもの。この質問に対しては、史跡等に設置している説明看板は、市の歴史的な場所に対する理解を深め、地域への愛着を持ってもらうことを目的として設置しており、質問に関係する場所に説明看板を設置することについては、場所や内容等に関して、慎重な配慮が求められる部分が多いため、今のところ難しいと考えているが、関係する歴史的な資料や情報の収集については、引き続き努めていく旨、答弁した。

3 点目の質問は、資料館・博物館のような、郷土資料の保存活用のための施設整備について。施設整備については、現状の中でどのような形で進めることができるのか、引き続き研究していく旨を答弁した。

【係長松浦】文化財について報告。

- ・旧大沢家住宅と旧鴛田家住宅について、今年度は、季節的な行事として七夕飾りを実施したほか、旧大沢家住宅で新たに「おはなし会」を開催した。一方、旧鴛田家住宅では、中秋の名月に合わせて例年開催している「お月見の会」と「落語会」を同日開催した。参加者は、落語会が事前申し込み制で 49 人、月見の会は 78 人であった。また、旧大沢家住宅では竹垣、旧鴛田家住宅では屋根と土間の修繕を行った。
- ・埋蔵文化財調査について報告。昨年 8 月下旬から 12 月中旬まで、屋敷貝塚という遺跡で、開発事業に伴い埋蔵文化財発掘調査を実施した。今後は整理作業を実施する予定。

【安達委員】旧鴛田家住宅の屋根・土間修繕の実施について、修繕料の金額を伺う。

【副主査鶴岡】屋根修繕は 15 万円近く、土間修繕は 8 万 2 千円程である。

(5) その他(非公開)

- ① ドイツ兵捕虜収容所関係資料について
- ② 民俗資料調査について

【上山委員長】その他、総括して質問はないか。

【各委員】なし。

【上山委員長】では、閉会とする。